

植物学雑誌へ出した論文には Torama Inoue となっている。因みに同誌上の吉永悦郷は別人である。そのうち、文検植物科に合格、高知県立第1、第3中学校、高等女学校などへ勤めた。ずっと降って昭和9年(1934)に旧制高知高等学校の講師となり、19年に教授に昇格と同時に退官し、佐川町へ帰った。昭和21年2月22日に76歳で世を去った。やはり戦争による身心消耗が影響したのであろう。氏の菌類以外の研究については、高等植物を牧野富太郎先生に、蘚苔類は Stephani に同定を乞い、昆虫其他にも広く関心を持った。

氏の学徳識見を語るエピソードがある。紀州田辺の南方熊楠氏が大正14年ごろ長男を高知第一高等学校(原文のまま)へ入学受験させたが、その直前に高知にて発病、吉永さんに変世話になった由である。南方氏も同じ南海にあって生物研究を続けていた吉永氏の人柄を伝へ聞き、子息をその門に入れる意図があったと推定される。正規の学歴のなかった兩人には面識がなくても、同じ反骨精神で通じ合うものがあったように見受けられる。

草野先生から私が預っているスクラップブックには内外の菌学関係者の通信文が貼ってあるが、その序文の一節を次に記す。“猶当時高知市の吉永虎馬君は植物採集家として有名にして隠花植物全般に渉り既に海外専門家に標品を送り、種名の調査に専心努力せり。菌類に関しても吾等と協力して盛に採集し之により珍種の学界に紹介せられたるもの頗る多し。而して同君は常に吾等と連絡を計り文通により採集品同定の結果を報告せらる。是亦本アルバムに貼付せらる”。

最後に伊藤洋氏の文をここに載せる。“豊富な植物の知識をもって県下の教員、植物研究者を指導し、収集した資料を惜しげもなく後進に譲って援助し、その謹厳な性格をもって永年にわたって青年子女の教育に当たった功績は大きく、徳望は今でも尊敬されている”。

(国立科学博物館)

○高等植物分布資料 Materials for the distribution of vascular plants in Japan.

99 タムシバ *Magnolia salicifolia* (Sieb. et Zucc.) Maxim. 長野県伊那市東部の高鳥谷山 [C 381355-13], 1331.1 m の山頂附近に少数生育しているのを1979年5月23日見つけた。従来伊那谷の西側には知られていたが、南アルプス側で記録されたのははじめてである。標本は TNS に納める (No. 375961)。なお高鳥谷山は Takazuyasan または Takazuyayama と読み、地図によっては高鳥谷山と記されているが、これは誤りと思われる。

(国立科学博物館 金井弘夫 Hiroo KANAI)